

科目名		授業形態	担当教員名	
聴覚障害Ⅲ（聴覚検査学）		講義・実習	中村 朋子・田中 義之・太田 信子・ 今井 絵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
聴覚系の検査について演習を交えて講義する。また呼吸発声機能測定装置装置、発声発語訓練システムの概要について演習を交えて学ぶ。				
授業の到達目標				
聴性脳幹反応検査、インピーダンスオージオメトリ、自記オージオメトリについて検査手技および結果の読み取りについて修得する。 呼吸発声機能測定装置装置、発声発語訓練システムの概要について修得する。 標準純音聴力検査について実技試験を通じて修得する。				
授業計画				
回	内容			
1	ABR講義(脳波とABR基礎を知る)			
2	ABR講義(脳波とABR基礎を知る)			
3	実技①ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
4	実技①ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
5	実技②ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
6	実技②ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
7	実技③ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
8	実技③ABR(ABRの基礎と実習の手順を知る)/インピーダンスオージオメトリ/自記オージオメトリ			
9	マスキング講義			
10	マスキング講義			
11	マスキング講義			
12	マスキング講義			
13	マスキング講義			
14	実技試験/発声発語訓練システムと呼吸発声機能測定の実際(※)			
15	実技試験/発声発語訓練システムと呼吸発声機能測定の実際(※)			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	実技(20%)ABR(レポート&筆記 40%)その他聴力検査(筆記 40%)		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
聴覚検査の実際 改訂4版	日本聴覚医学会 編	南山堂		
聴力検査の行う人のための図解 実用マスキングの手引き第4版増補	服部 浩	中山書店		
自由記載	資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
3種の実技は3グループに分け、グループ毎に実施 (※)はグループ毎に3日に分けて実施				